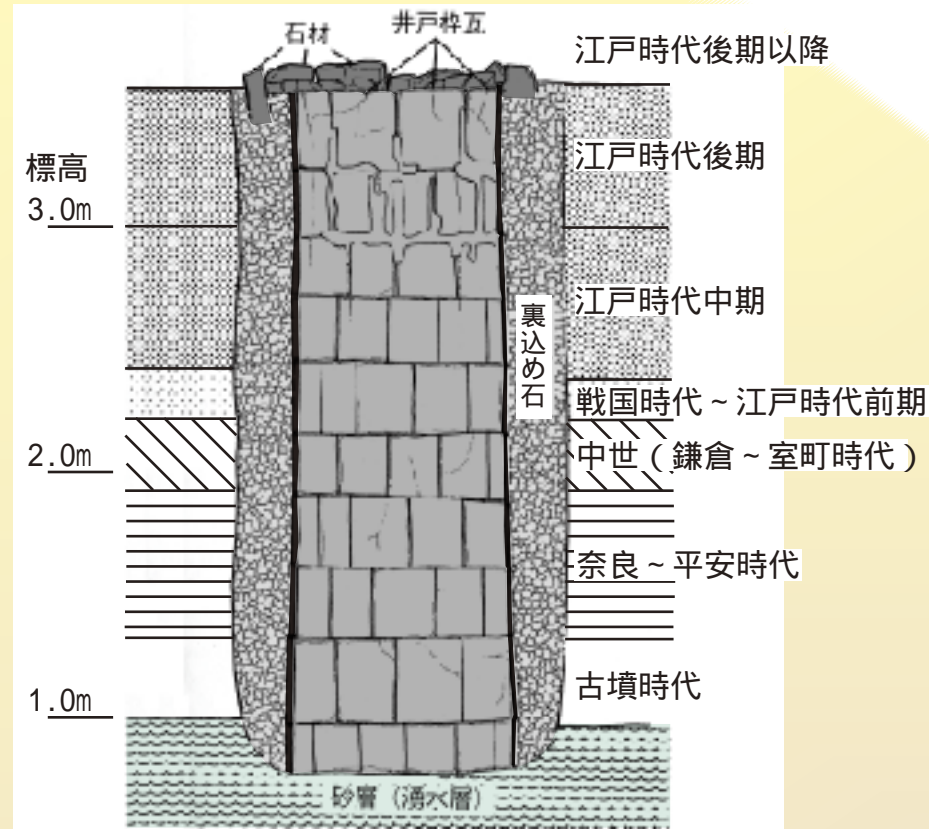


今回の調査地は、「和歌山城下町図」に描かれた本願寺の南側にあたり、平成4年に行われた第3次調査では道路跡として東西方向の鍛冶屋町通りと中橋から続く中橋筋の交差点が確認されていました。今回、中橋筋の延長部分がみつき、第3次調査の方向性とは異なり、やや東の本願寺に向かっていることがわかりました。そして、この周辺の建物もこの道に沿った方向性を示していることも確認できました。



和歌山城下町図《安政2年(1855)より》



井戸と堆積層の模式図

これまでの調査で見つかった井戸は全部で20基以上あります。これらの井戸の大半は、井戸専用の井戸砕瓦を用いたもので、最下部には木桶を埋設しているものもあります。井戸の内部には太平洋戦争時の和歌山大空襲によって焼け落ちた戦災瓦がたくさん出土しています。このことから、江戸時代に作られた井戸が昭和20年まで使用されていたことがうかがえます。



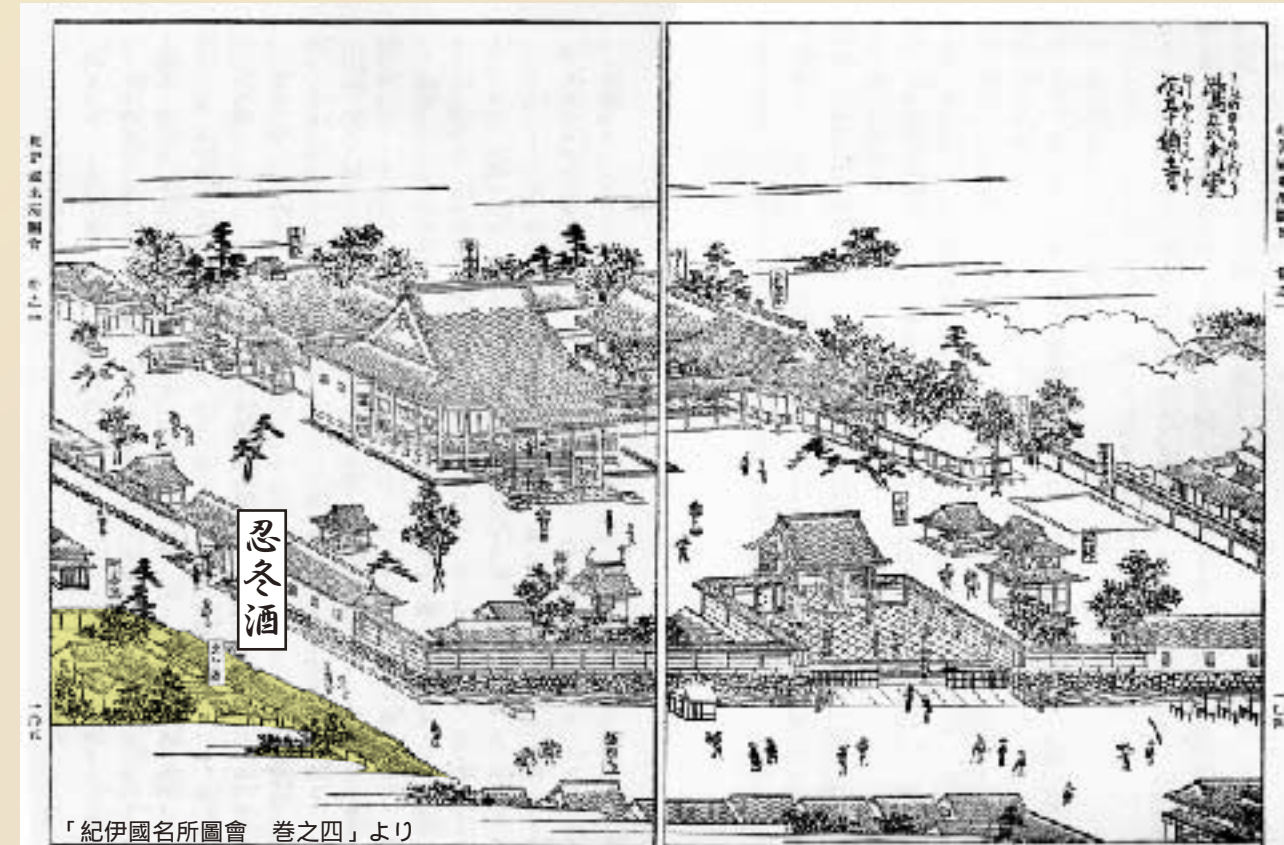
江戸時代の井戸

### 忍冬酒について

いにしへより鷺森御堂の裏門前、酒屋源治朗太夫が家に製する所にして、其名四方に高し。其味辛甘相半ばして、能く能く胸間をすかせり。薩州の泡盛に比するに、香氣一段の風味をまし、いとも佳品なり。しかも永く酔いをたもちて、容易くさむることなし。彼中山の千日酒といへるは、此のたぐひにやと思はる。就中毎歳 国君より 禁裏御所及び関東へ献じたまへり。  
(「紀伊國名所圖會 卷之四」より)



道の南から現在の鷺森御坊を望む



「紀伊國名所圖會 卷之四」より